

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第5区分

【発行日】平成22年12月9日(2010.12.9)

【公開番号】特開2010-95138(P2010-95138A)

【公開日】平成22年4月30日(2010.4.30)

【年通号数】公開・登録公報2010-017

【出願番号】特願2008-267434(P2008-267434)

【国際特許分類】

B 6 0 B 21/02 (2006.01)

【F I】

B 6 0 B 21/02 J

【手続補正書】

【提出日】平成22年10月21日(2010.10.21)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ウェル部の外周面からホイール径方向の外側に立ち上がり、前記外周面のホイール周方向に延びるように形成されて、タイヤ空気室内で前記ウェル部の外周面上にヘルムホルツレゾネータである副気室部材を固定する縦壁と、

前記副気室部材の一部を受け入れてこの副気室部材がホイール周方向に回るのを防止する前記縦壁に形成された受入れ部と、

を備える車両用ホイールであって、

前記縦壁は、ホイール周方向において部分的に肉抜きされた肉抜き部を更に有することを特徴とする車両用ホイール。

【請求項2】

前記副気室部材は、前記ウェル部の外周面側の底板と、この底板との間で副気室を形成する上板と、前記副気室と前記タイヤ空気室を連通する連通孔と、からなる本体部と、

前記底板と前記上板とを結合すると共に、前記本体部から前記縦壁側に延出して前記縦壁に形成された溝部に係止される縁部と、

を有することを特徴とする請求項1に記載の車両用ホイール。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

前記課題を解決した本発明は、ウェル部の外周面からホイール径方向の外側に立ち上がり、前記外周面のホイール周方向に延びるように形成されて、タイヤ空気室内で前記ウェル部の外周面上にヘルムホルツレゾネータである副気室部材を固定する縦壁と、前記副気室部材の一部を受け入れてこの副気室部材がホイール周方向に回るのを防止する前記縦壁に形成された受入れ部と、を備える車両用ホイールであって、前記縦壁は、ホイール周方向において部分的に肉抜きされた肉抜き部を更に有することを特徴とする。

この車両用ホイールは、従来の車両用ホイール(例えば、特許文献1参照)のようにホイールに複数の隔壁や蓋部材を順次に組み付けて気密性を考慮しながら高精度にこれらを

結合させて副気室を形成していくものと異なって、予め副気室を有する副気室部材をウェル部に設けた縦壁に係止させるだけで製造される。

また、車両用ホイールは、副気室部材を固定する縦壁に肉抜き部を有しているので縦壁部分の重量が削減される。